

ウシオ電機株式会社 2026 年（令和 8 年）3 月期 第 3 四半期 決算説明会

主な質問と回答

日時：2026 年 2 月 6 日（金）19:15 ～ 20:00

方式：オンライン

説明者：代表取締役社長 兼執行役員社長 CEO 朝日 崇文

<ご留意事項> 「主な質問と回答」は、決算説明会に出席されなかった方々のために、参考として掲載しています。掲載する内容は、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

◆ 質問者：SBI 証券 氏原様

Q：デジタルリソグラフィ装置(DLT 装置)の現状についてお伺いします。市場や貴社の業績に大きなインパクトが出てくるのは 2027 年度か 2028 年度と考えていますが、3 か月前と比較して、現在感じている市場の拡大や競合他社の動向、新たな課題があれば教えてください。

A：Applied Materials 社と協業で進めている DLT 装置の最大のポイントは、対象基板の大判化が本格化する時期です。各社とも 2028 年度に本格的な量産立ち上げを計画している感触を持っています。そのため 2027 年度から装置の搬入が拡大していく見込みで、スケジュール感についても 3 か月前と大きな変化は感じていません。引き合いは非常に旺盛で、案件数も増加していますが、技術面での調整やお客さまとのすり合わせが各案件で発生しており、これらを確実に進めることが非常に重要だと考えています。

競合他社も増加していますが、DLT 装置は安定性や DDC* の性能、ソフトウェアを含めた総合評価で高い評価をいただいています。こうした強みをしっかり訴求していくことで、2027 年度からの DLT 装置の本格的な立ち上がりに向けて、着実に進めていけると考えています。

*DDC: Digital Dynamic Connection

Q：以前よりも、お客様の評価や貴社に対するリクエストは強まっているという理解でよろしいでしょうか。

A：はい、その通りです。

◆ **質問者：ジェフリーズ証券 中名生様**

Q：第3四半期の売上高や営業利益は、貴社の想定に対して良かったのか、悪かったのか教えてください。

A：第3四半期までは社内計画に対して良い方向で進んでいます。ただし、第4四半期については、現在継続して取り組んでいる事業構造改革の中で、将来的に大きな貢献が見込めない事業については積極的に入れ替えを進めているため、それに伴う評価損計上等のリスクを考慮し、業績予想は据え置いています。

Q：第3四半期の営業利益は金額的にどの程度良かったのでしょうか。

A：それほど大きな金額ではありません。

Q：事業環境について3カ月前と比べて大きな変化はないとのご説明でした。ただ、数日前にパッケージ基板メーカーが大きな設備投資を発表されるなど、全般的にパッケージ基板周りの投資意欲が高まっているように感じます。その辺りの変化を踏まえても、本格的な回復は2026年後半以降になるのでしょうか。

A：引き合いは、DLT装置だけでなく当社のステップ露光装置も活発化してきていると感じています。また、子会社のADTEC Engineering社で扱うミドルレンジのダイレクトイメージング(DI)露光装置も、生成AIに関連した基板需要の拡大に伴い引き合いが増加しています。全体的に、生成AIを中心にその周辺分野でも設備投資が動き始めている印象です。

立ち上がりの時期については、装置のリードタイムなどを考慮すると、本格的な回復は2027年度からになるというのが現時点での私どもの感触です。

Q：UX-4の新製品についてもご案内いただきましたが、この製品も通信関連で需要が強いのでしょうか。

A：現在、話題性が高い光電融合関連のパーツや基板部品を中心に、パワー半導体やMEMS、センサー系など、さまざまな分野で引き合いが増えています。

Q：この製品は、2026年度後半には業績への寄与が見込まれるのでしょうか。

A：2026年度には一定程度立ち上がる案件も出てくると考えています。私たちが目指している分野での引き合いも増加しており、2026年度後半から業績への寄与が期待できると考えています。

◆ **質問者：みずほ証券 斉田様**

Q：第3～第4四半期にわたって評価減などの一時的な費用が発生しているとのコメントがありました。

Industrial Process(IP)事業と Visual Imaging(VI)事業のそれぞれで、どのような内容で、どの程度の金額が発生し、第4四半期ではどの程度を見込んでいるのか教えてください。

A：新成長戦略に基づく事業ポートフォリオ変革に取り組む中で、事業の取捨選択や事業譲渡を進めています。その結果、在庫や固定資産の評価減が発生しています。ただし、第3四半期までに発生している金額はそれほど大きくありません。第4四半期については現在精査中ですが、2桁億円規模の計上となる可能性もあります。主な内容は、IP及びVI事業の一部事業の整理に伴うものが中心となる見込みです。

Q：IP事業の露光装置でも一部滞留在庫の低価法による評価減があるとのことでしたが、これは金額的にはそれほど大きくないのでしょうか。

A：はい。それほど大きくはありません。

Q：低価法の適用分については、廃棄されているわけではなく単純に原価が下がっている形であるため、来期以降に販売されれば取り返せるという理解でよろしいでしょうか。

A：その通りです。

Q：VI事業のラインアップ絞り込みについて、前期も同様の費用が発生し、今期も第4四半期にわたって発生する可能性があるとのことでしたが、来期以降も絶え間なく取り組みを進めるため、継続的に費用が発生すると考えた方がよいのでしょうか。それともラインアップの絞り込みには目処がついてきていると考えてよいのでしょうか。

A：継続的に見直しを行い、評価の結果で問題があるものから順次整理しています。将来的な収益改善が見込めないものについて、大きなものから積極的に進めているため、来期以降に同規模の大きな費用が発生する可能性は低いと考えています。

Q：先端パッケージ基板関連で、最近 EMIB-T 関連が積極的に動き始めているという話を各方面から聞いています。もし EMIB-T 関連の投資が動けば、貴社のステッパ露光装置にも相応の寄与が期待できると考えていますが、その見方でよろしいでしょうか。また、3カ月前と比べてビジビリティはどの程度高まっているのか、貴社の業績に反映されるタイミングはいつ頃と見込んでおけばよいのか、差し支えない範囲で教えてください。

A：EMIB-Tの動きについては当社も注視しており、市場が広がればオポチュニティーも拡大すると考えています。実際、さまざまなお客様から関連する引き合いが増えている状況です。ただし、EMIB-Tを含む生成AI向け基板の大判化技術に関しては、お客様のニーズに応じてステッパだけでなくDI方式も検討されていると認識しています。そのため、オポチュニティーが広がる一方で、どの装置・方式が採用されるかは注視が必要です。当社としては、DLT装置やステッパ露光装置UX-5シリーズの新製品、DI露光装置の新製品などをラインアップとしてご提供する戦略を進めており、EMIB-T関連の動きについても一定程度確保できる見込みです。業績に寄与時期は、やはり2027年度以降と考えています。

Q：ガラスコアの試作ラインを今年立ち上げる企業が複数あると聞いています。コア材が平坦になることで、より微細な線が引きやすくなるため、微細化の流れとしては大きな変化だと思いますが、この辺りは貴社ではどう捉えていますか。

A：ガラスコア関連でも当社のステッパ露光装置や DLT 装置を含め、さまざまな商談や引き合いをいただいています。お客様や素材、設計思想によってニーズにバラエティがあり、必ずしも 100%一致しない場合もあります。そのようななかで、チューニングを含めていかにお客様のニーズを的確に捉え、タイアップできるかが重要だと考えています。

Q：ガラスコア関連の投資が貴社の業績に寄与するタイミングはいつ頃とお考えでしょうか。

A：企業によってはガラスコアの導入時期を遅らせる動きもありますが、全体としては同様のタイミング、つまり 2028 年には本格化すると見ており、当社の業績には 2027 年度以降に寄与し始めると見込んでいます。

Q：これまでの話を総合すると、露光装置関連は 2027～2028 年度が大きな成長ポイントであり、短期的には来年度は大きな貢献が期待できない印象です。また、オスラム社の光源事業買収も、連結初年度は費用がかさみ、大きな寄与はないと考えています。その上で、来期の増減要因として、今期発生した一時的な費用の戻りは期待できそうですが、改革は継続することと、来期業績の方向感が知りたいです。VI 事業については、営業利益 8%目標は変わらないとのことですが、各セグメントの売上・利益に関して、現時点で見えている要素などを教えてください。

A：来期(2026 年度)については、露光装置は若干の伸びが見込まれますが、まだ大きな業績寄与が始まる状況ではありません。業績面では、現在進めている構造改革による収益基盤の強化により、VI 事業の底上げがプラス要因になると考えています。増収増益を目指していますが、現時点では数字面の精査中であり、具体的なコメントは控えさせていただきます。

以上